



イーレックス株式会社 [9517]

～「未来を切り拓く『共創』エネルギー企業」を目指して～

2017年2月27日開催

個人投資家向け説明会資料

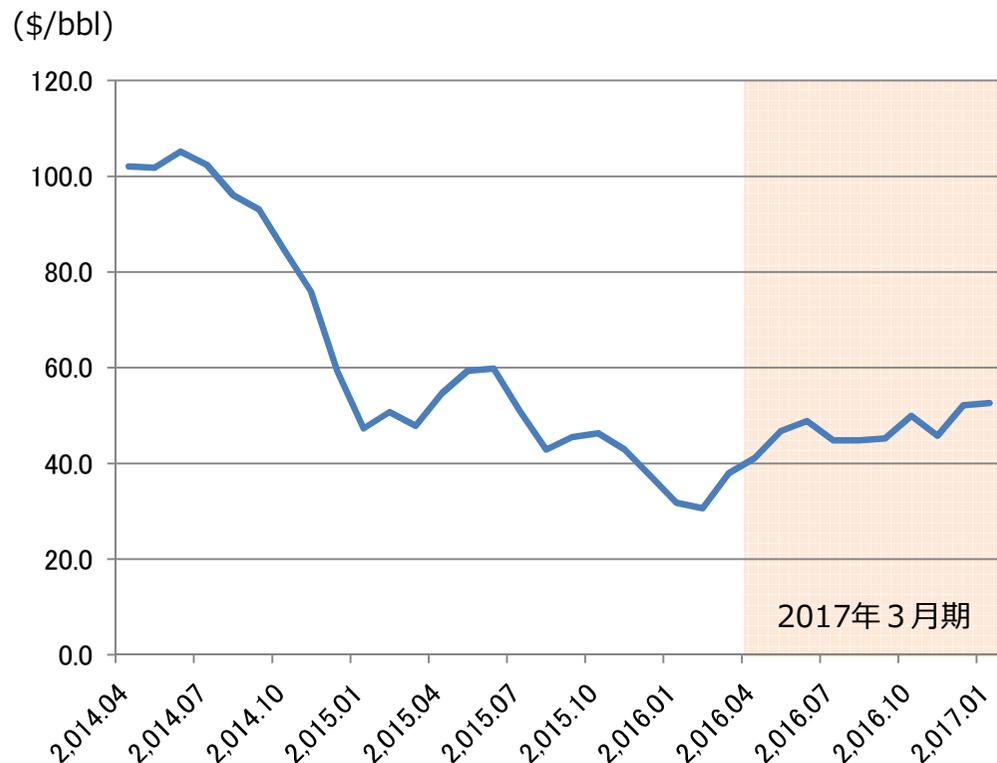


1. 当社は電力市場で2000年より電力事業を専業としている新電力のパイオニアです
2. 当社の特徴は以下の2つです
 - ①「代理店による強力な営業網」
 - ②「FIT制度活用の自社再生可能エネルギー発電所」
3. 中部エリアでは2014年4月より電力の小売りを行っており、既に**8,000件以上**のお客様へ電力の供給を行っております
3. 2016年5月に従来の中期経営計画（Challenge 500）を上方修正し、新たに売上高1,000億円、営業利益率10%とした新中期経営計画『DASH 1000』を発表しました
5. 本年2月14日には『DASH 1000』初年度に当たる当期の業績見込みの修正を行い、期初計画よりも上方で推移する見込みである事をお知らせしております。

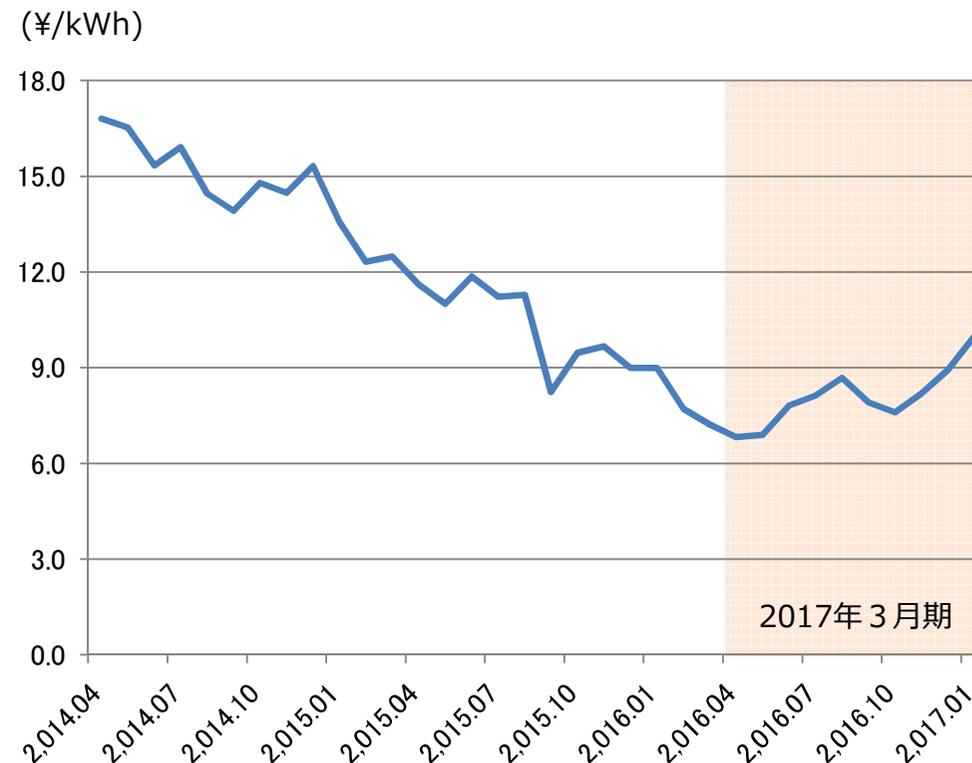
I	市場環境 概況	・ ・ ・ 3
II	制度変更の概要	・ ・ ・ 6
III	第3四半期のトピックス	・ ・ ・ 10
IV	事業部門におけるトピックス	・ ・ ・ 18
V	第3四半期決算概要	・ ・ ・ 31
VI	参考資料	・ ・ ・ 35

I . 市場環境 概況

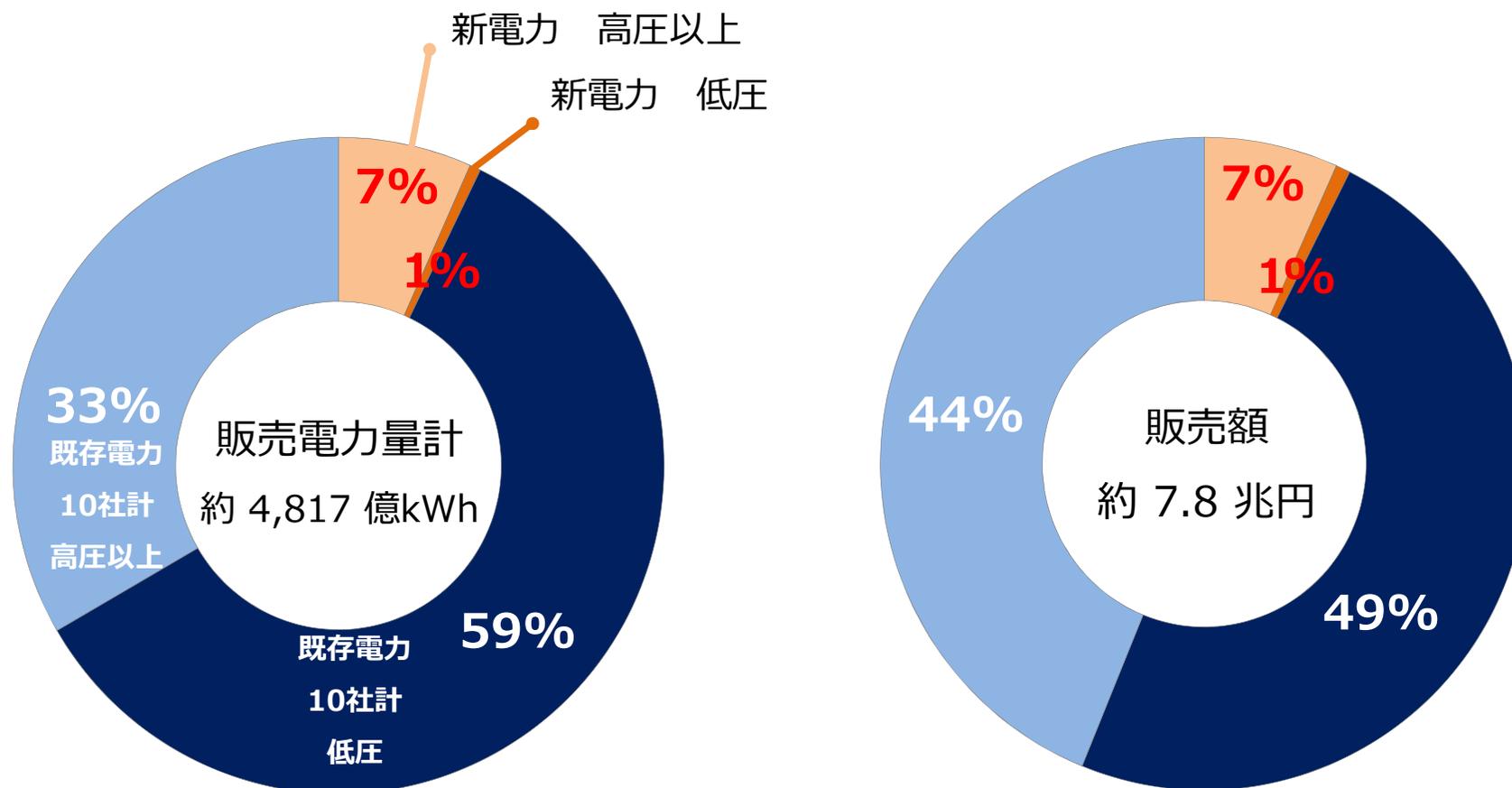
【一次エネルギー価格（WTI原油）の推移】



【卸電力取引価格(JEPX:DA-24)の推移】



- 2015年3月期以降、下落を続けた一次エネルギー価格が当期に入り緩やかな上昇傾向に回帰。
- 一次エネルギー価格の上昇、為替円安化、電力需要の高まる冬期入り、の影響から、卸電力取引価格は2016年秋以降緩やかに上昇を開始している。
- 当社仕入においては、卸市場価格の予想・分析とポートフォリオ管理が重要な局面となる。



- 新電力が開拓したシェアは販売電力量比、販売額比ともに約8%
- 販売電力量/販売額のいずれにおいても、**未開拓の大きな市場**が存在
- 2016年3月期の既存電力10社の小売売上高合計は約16兆円
- 当社『Dash 1000』で目標とする**売上高1,000億円は電力小売市場全体の0.6%に相当**

Ⅱ. 制度変更の概要

「貫徹小委」

ベースロード電源市場
(ベースロード専用市場開設)

市場からの安価な電力調達

グロスビディング
(電力会社内取引の市場経由義務化)

電力市場取引の安定化

電力トレーディングの重要性増加

当社の対応

①2015年9月
米国Spark Energy社と協業

②2016年10月
エネルギー取引部設立

電力市場の動向を見据え、電力トレーディング機能を強化

福島第一原発事故関連資金 総額約22兆円※

賠償
8兆円

東電の利益と需要家の
電気料金から捻出

事故廃炉
8兆円

東電の利益及び政府予算から資金捻出

除染作業
6兆円

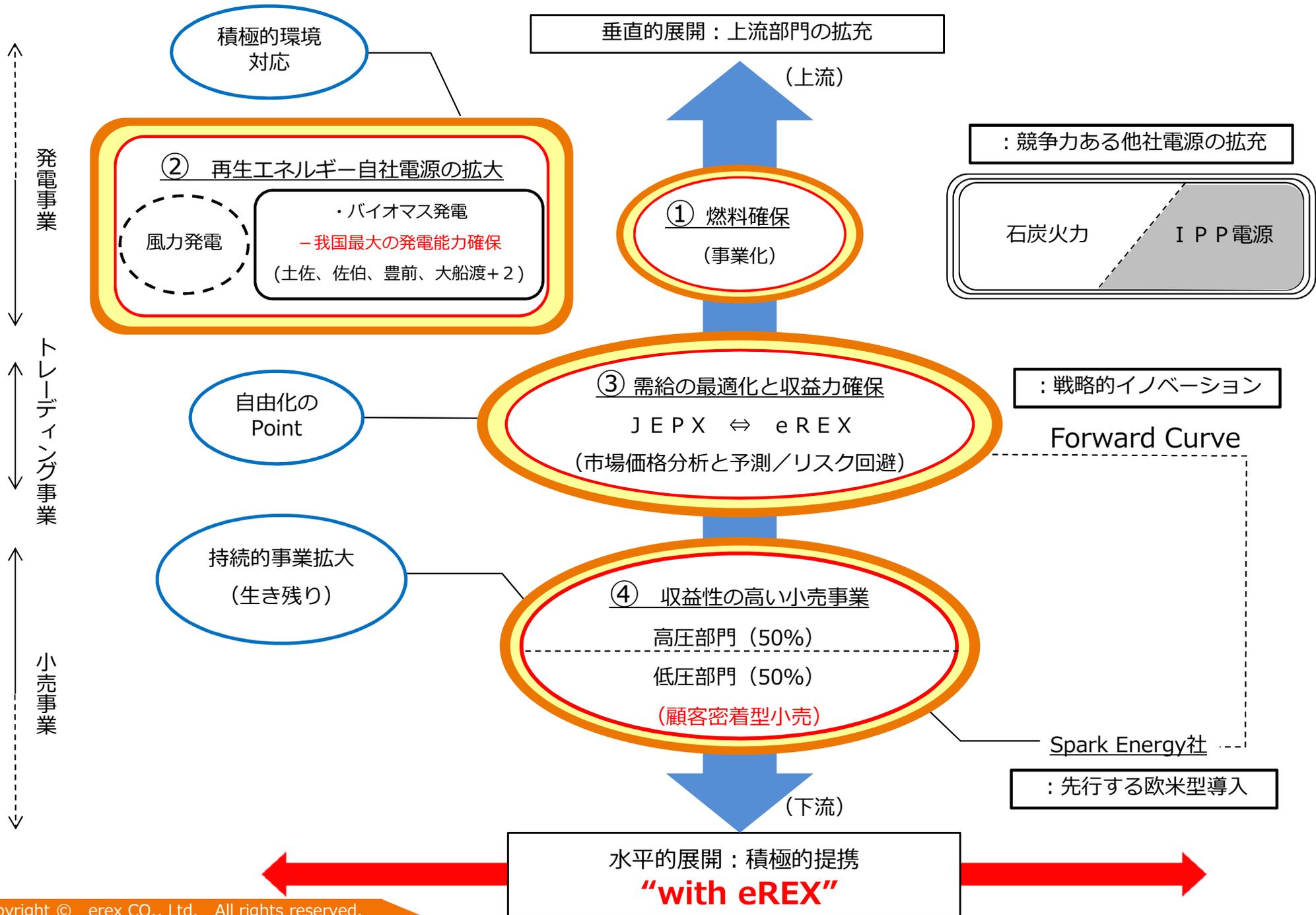
未回収の「**過去分**」
として**4兆円**を
需要家から回収

2020年まで

規制料金で回収
1.5兆円

2020年以降

託送料金で回収
2.5兆円



Ⅲ. 第3四半期のトピックス

「Dash 1000」

(単位：百万円、下段は売上比)

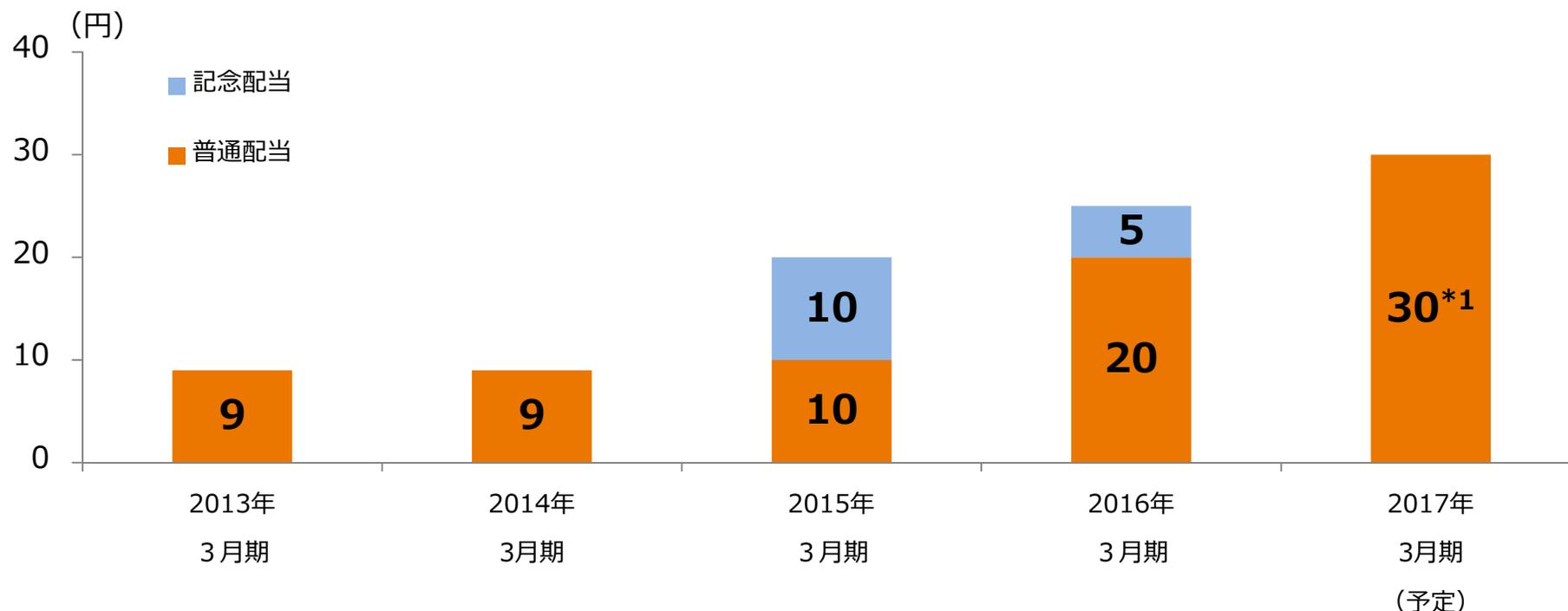
	2016年3月期 (通期実績)	2017年3月期			2018年3月期		2019年3月期	
		(第3四半期 実績)	通期計画 *1	(前年比)	通期計画	(前年比)	通期計画	(前年比)
売上高	22,877 (100.0%)	22,049 (100.0%)	31,548 (100.0%)	+37.9%	51,280 (100.0%)	+53.2%	67,339 (100.0%)	+31.3%
営業利益	1,723 (7.5%)	2,442 (11.1%)	3,758 (11.9%)	+118.1%	5,311 (10.4%)	+99.4%	7,354 (10.9%)	+38.5%
経常利益	1,614 (7.1%)	2,328 (10.6%)	3,457 (11.0%)	+114.2%	5,076 (9.9%)	+107.1%	7,085 (10.5%)	+39.6%
当期純利益	1,112 (4.9%)	1,252 (5.7%)	2,000 (6.3%)	+79.9%	3,336 (6.5%)	+133.9%	4,754 (7.1%)	+42.5%

*1 平成29年2月14日開示【業績予想の修正に関するお知らせ】

	2017年3月期		
	期初計画	修正後 業績予想*1	増減率
売上高	33,466 (100.0%)	31,548 (100.0%)	▲5.7%
営業利益	2,664 (8.0%)	3,758 (11.9%)	+41.1%
経常利益	2,451 (7.3%)	3,457 (11.0%)	+41.0%
当期純利益	1,426 (4.3%)	2,000 (6.3%)	+40.3%
1株当たり当期純利益 (分割前換算)	87円61銭	40円07銭 (120円20銭)	(+37.2%)

- ・ 代理店網による小売営業により、期初計画よりも販売単価が高い顧客の獲得に成功
- ・ 卸電力取引所の活用や制度変更により、期初計画よりも大幅に原価を抑制
- ・ これにより、期初計画に対し各段階利益が+40%超となった為、通期業績予想を上方修正

*1 平成29年2月14日開示【業績予想の修正に関するお知らせ】



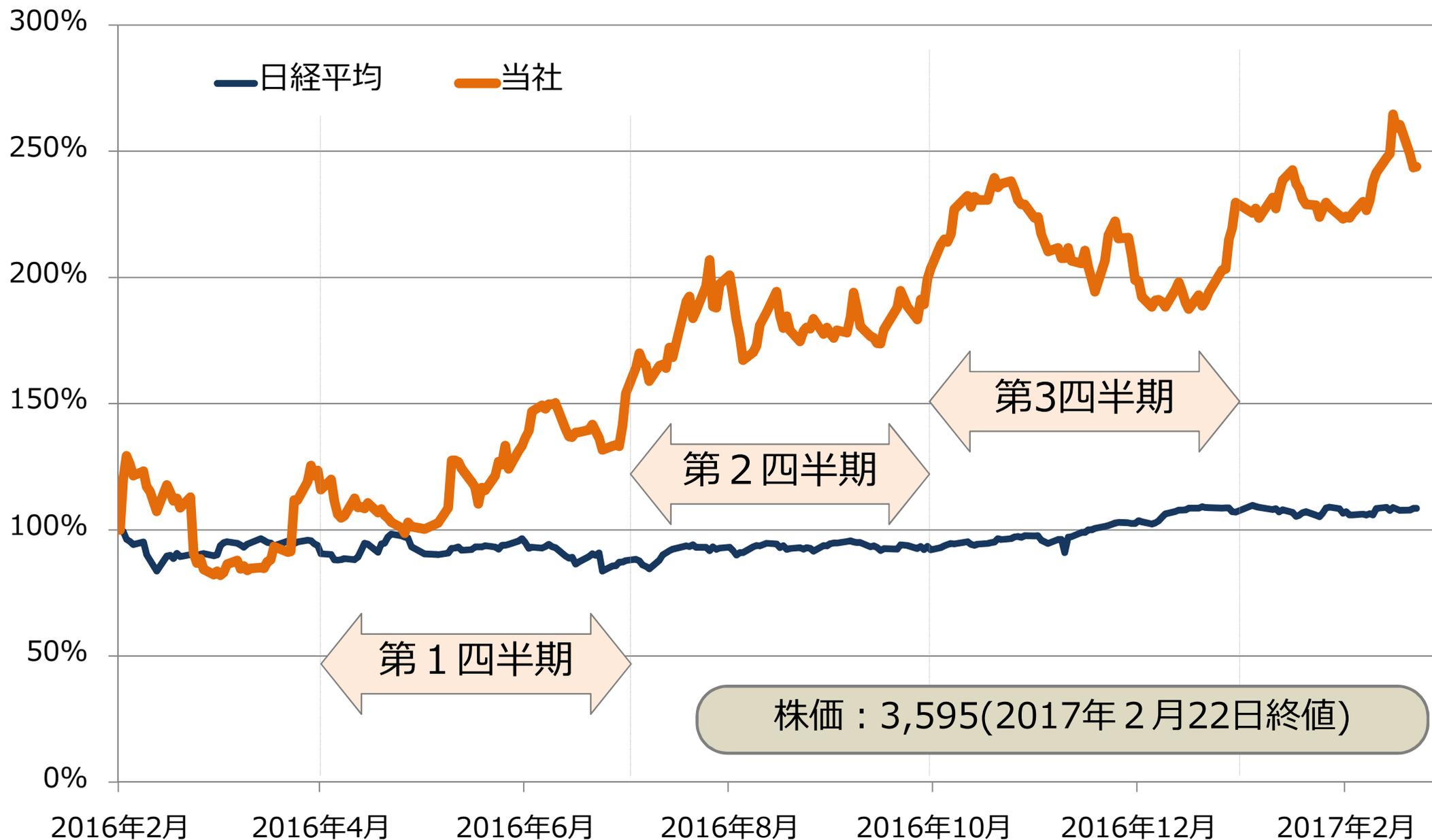
【配当実績+予定】

- 2015年 3月期： 20円（普通配当10円+マザーズ市場上場記念配10円）の配当を実施
- 2016年 3月期： 25円（普通配当20円+一部上場記念配5円）の配当を実施
- 2017年 3月期： 30円*1の配当を実施予定（第19期定時株主総会付議予定）

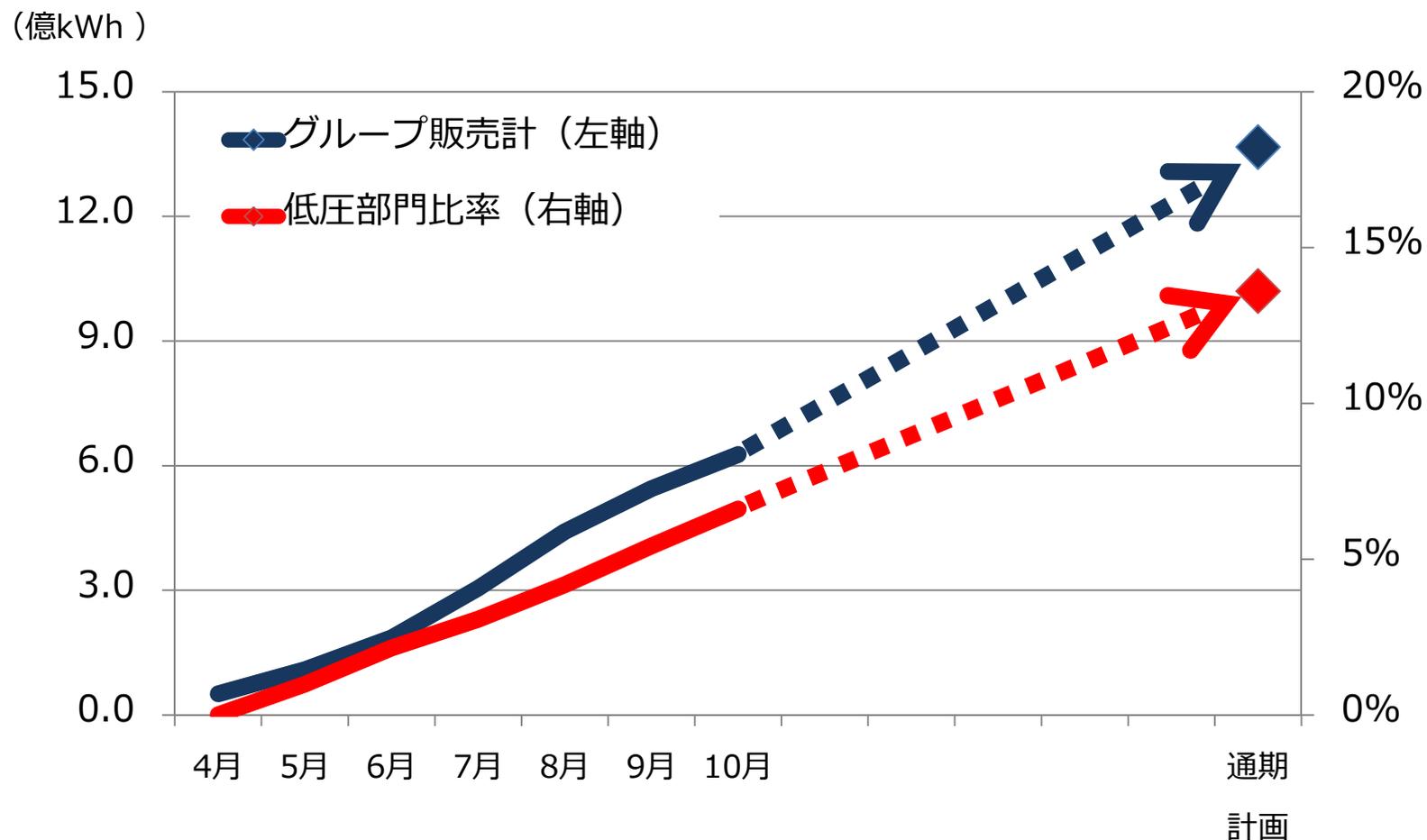
【株式分割*2】

- 平成29年 3月 6日を基準日として1株につき3株の割合をもって分割いたします
- 単元購入代金の引下げにより、より多くの投資家様にご支援頂ける銘柄を目指します

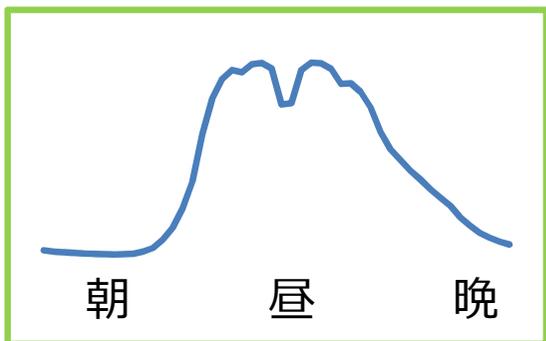
*1 分割前換算、平成29年2月14日【株式分割および株式分割にともなう定款の一部変更ならびに配当予想の修正（実質増配）に関するお知らせ】



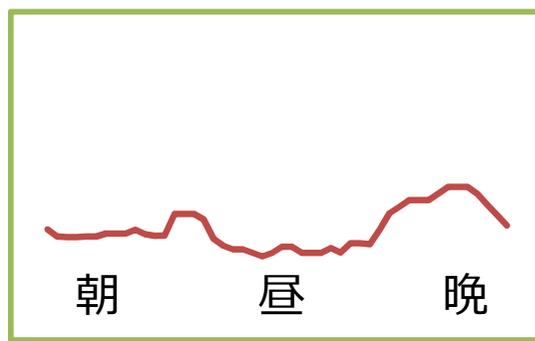
※ 平成28年2月1日終値（当社：1,474円、日経平均：17,865.23円）を100%として



- 通期小売販売計画 (グループ販売計) に対して、順調に進捗
- 低圧部門比率も通期計画に対して、順調に進捗
- 第3四半期以降も引き続き、顧客ポートフォリオの最適化に向け新規顧客の獲得を継続



高圧需要家
(昼間需要 > 夜間需要)

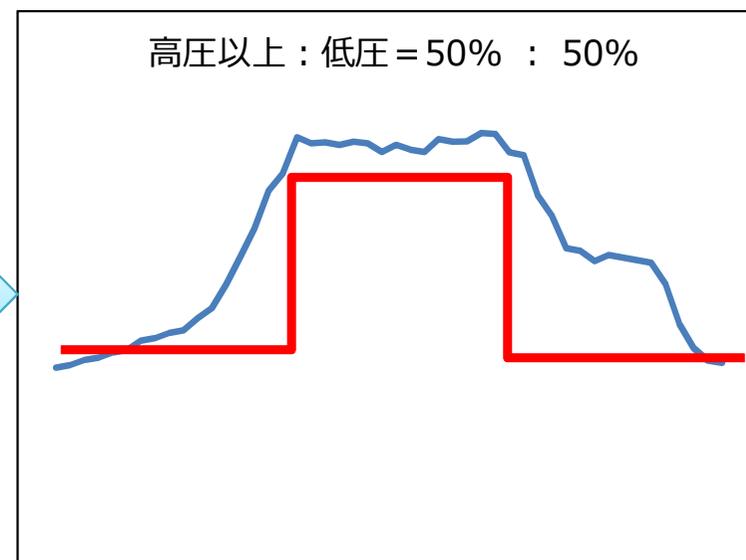
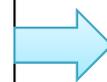
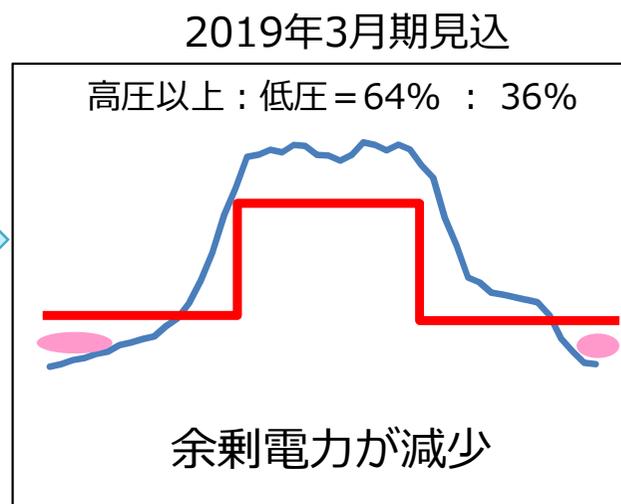
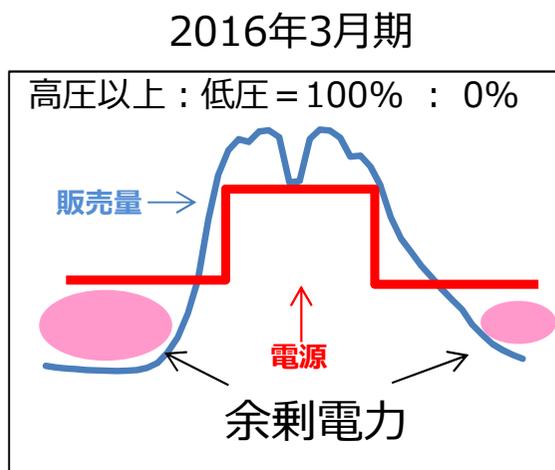


低圧需要家
(昼間需要 < 夜間需要)



高圧・低圧 合成需要

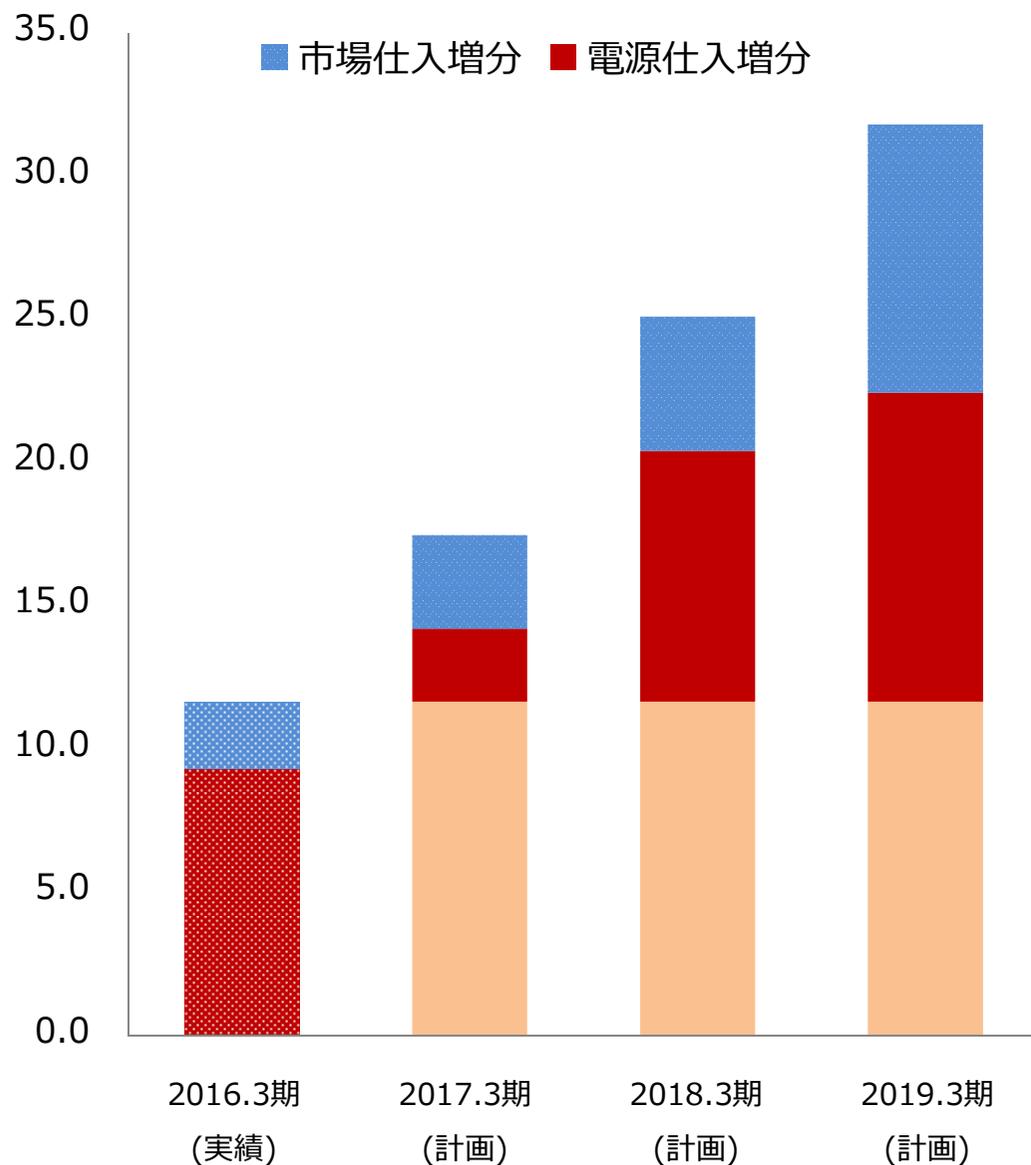
2020年3月期以降



“余剰電力の収益化”と“供給力の最適化”を実現

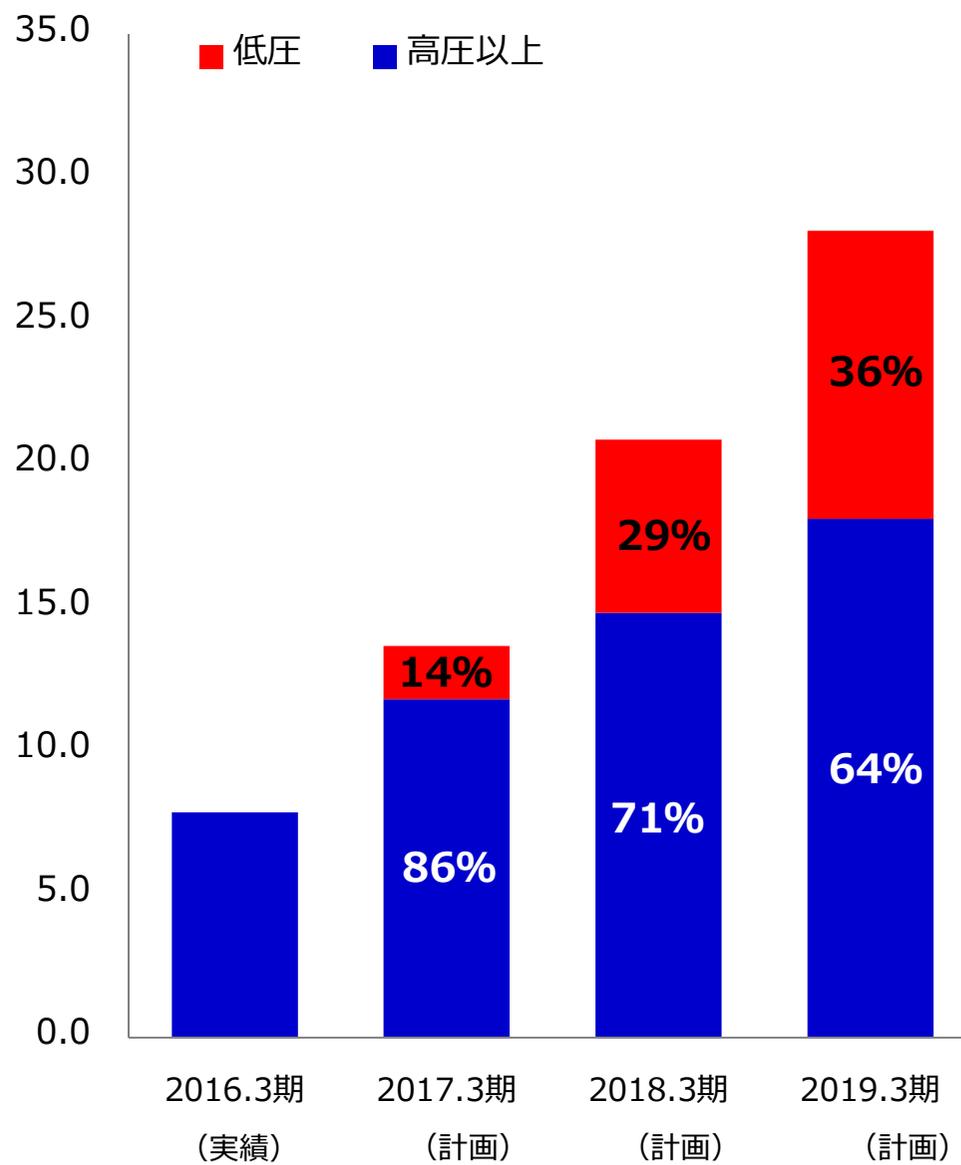
電源種類別仕入量

単位：億kWh/年



小売販売電力量

単位：億kWh/年



IV. 事業部門におけるトピックス



全国1,300件以上の
代理店様



全国46社（中部エリア9社）
のLPG会社様とのコラボ



沖縄ガスとの合併会社によ
る沖縄における電力販売



健康に目を向けた電力



Powered by eREX Spark Marketing

通信会社とのコラボ

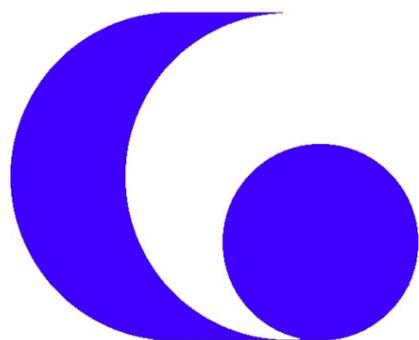


Powered by eREX Spark Marketing

全国の歯科医院向け電力

平成29年2月20日時点 供給施設数

高圧： 約10,300施設 、 低圧： 約43,000施設



日本ガスコム株式会社
静岡ガスコム株式会社



大丸エナウイン
大丸エナウイン株式会社



株式会社あみや商事



ダイイチガスコム株式会社



SHINNIHON
GAS

新日本ガス株式会社

大陽日酸エネルギー株式会社

三重交通商事株式会社

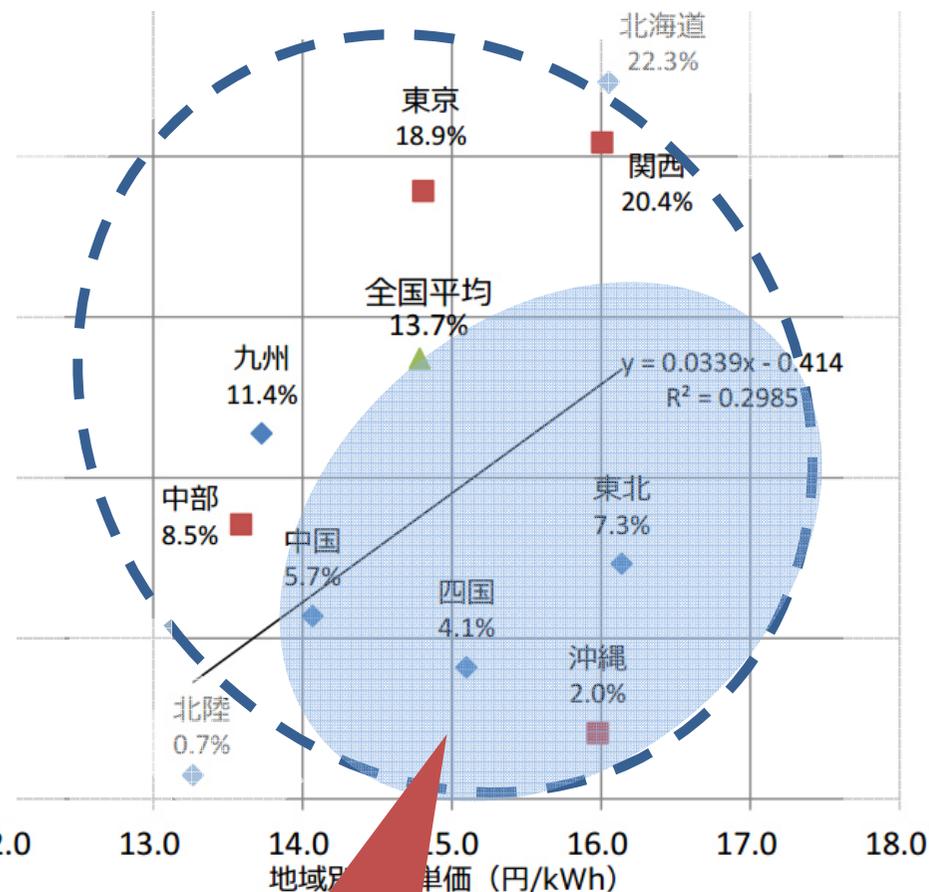
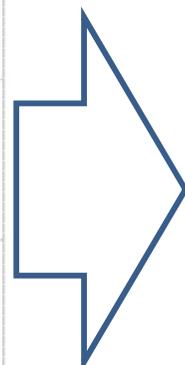
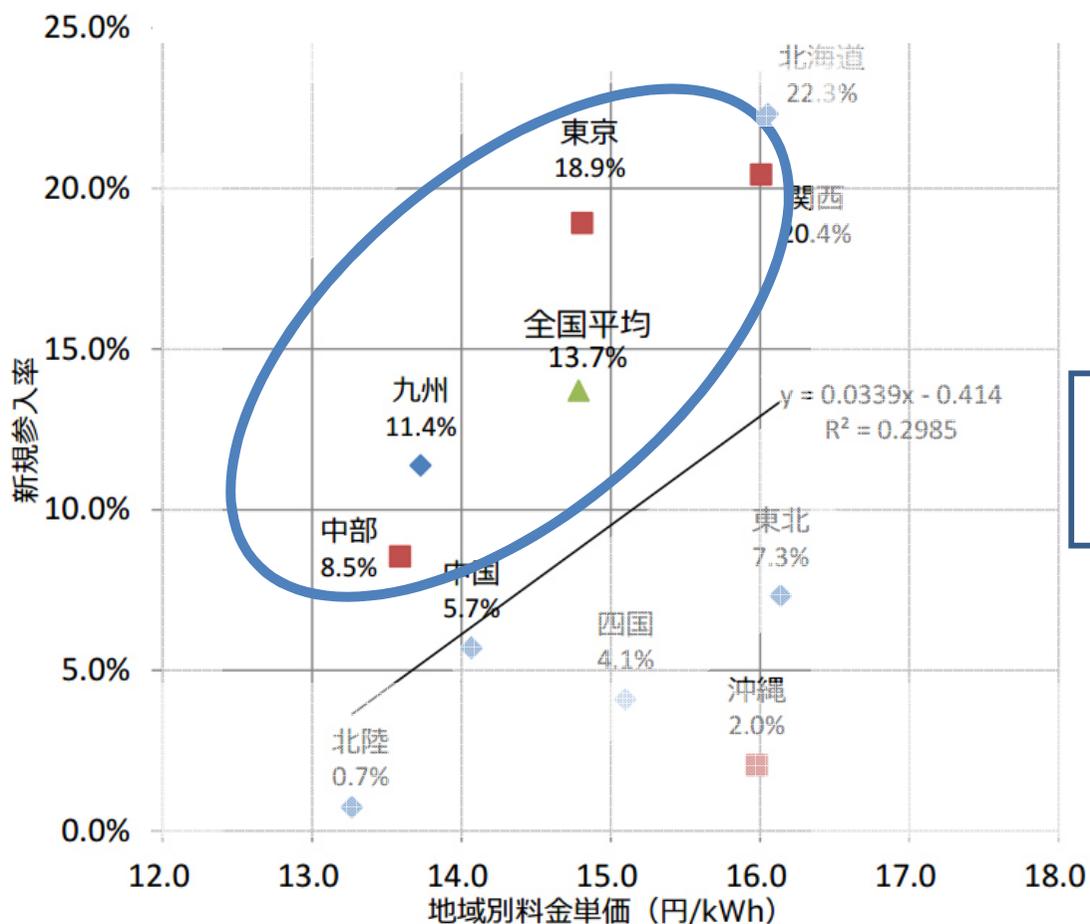
北信ガス株式会社

【高圧】

- ① 営業力強化
 - 既存代理店の営業効率向上にむけた支援の強化
- ② 新規チャネルの拡充
 - 変化に対応した新たな代理店モデル確立
- ③ 顧客の創出
 - 需要家ターゲットの再設定
 - 新たな地域への進出準備 (北海道・四国)

【低圧】

- ① 営業力強化
 - 既存販売チャネル、新規プロジェクト等による販売促進
「タニタ× erex あるく・おトク・でんき」等
 - 新規アライアンスパートナー拡大 (ケーブルTV会社など)
 - 特定地域での販売キャンペーン実施 (第一弾：佐伯発電所完成に伴う佐伯市向)
- ② マーケティング強化
 - ブランド認知度向上、広報活動
- ③ 供給地域の拡充
 - 未開拓地域での販売促進 (東北・中国)
 - 新たな地域への進出準備 (2017年度)



高単価かつ競争の少ないエリアの開拓により、需要家の獲得を加速。

2016年11月9日 (1109→イー・レックス)

☆ ブランドコンセプト
未来をデザイン with erex

イーレックスは、発電から販売までを一貫して行う、新電力のパイオニアです。
1000社を超えるパートナー企業と共創しながら、
新しい電気の仕組みを創り続けてきました。

わたしたちには、創業以来続く「挑む文化」があります。

国内初となる、ヤシ殻を主燃料とした環境にやさしいバイオマス発電や、
米国の電力小売先進企業との合併会社設立を、業界に先駆けて実現しました。
さらに、需要・供給と価格の最適化を実現するトレーディング事業など、
これからも、皆さまの安心と信頼をベースに、革新的なサービスを生み出します。

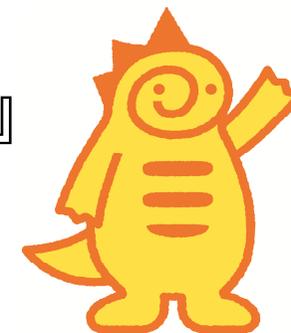
未来を生きるすべての人のために、
これまでにない新しい電気を仲間と共に創る。

未来をデザイン with erex

☆ ロゴ



☆ キャラクター
『レックスくん』



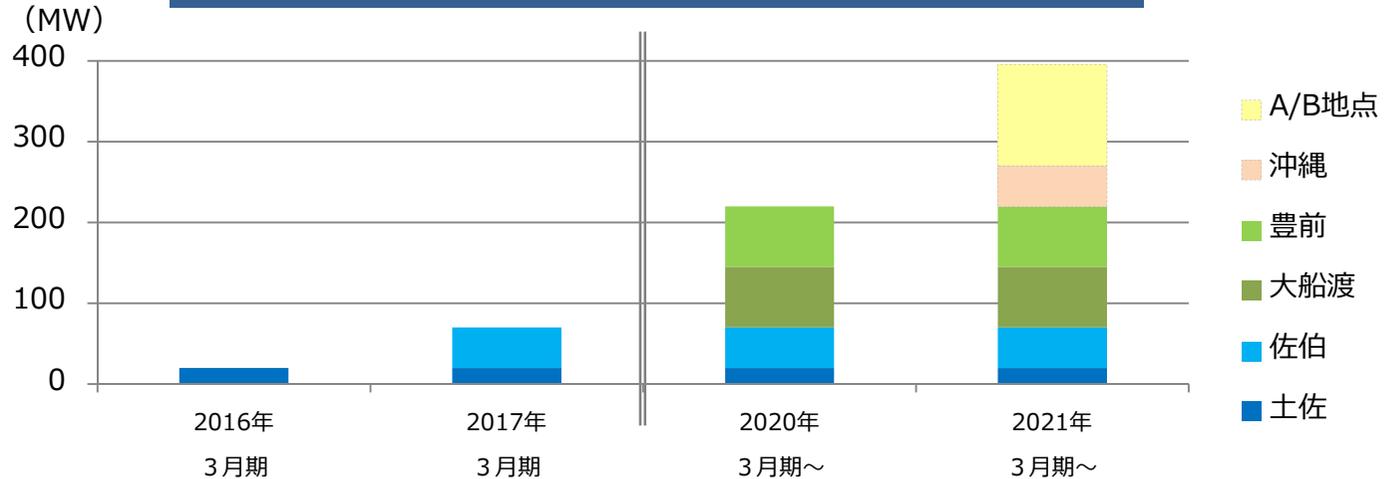
☆ ウェブページ



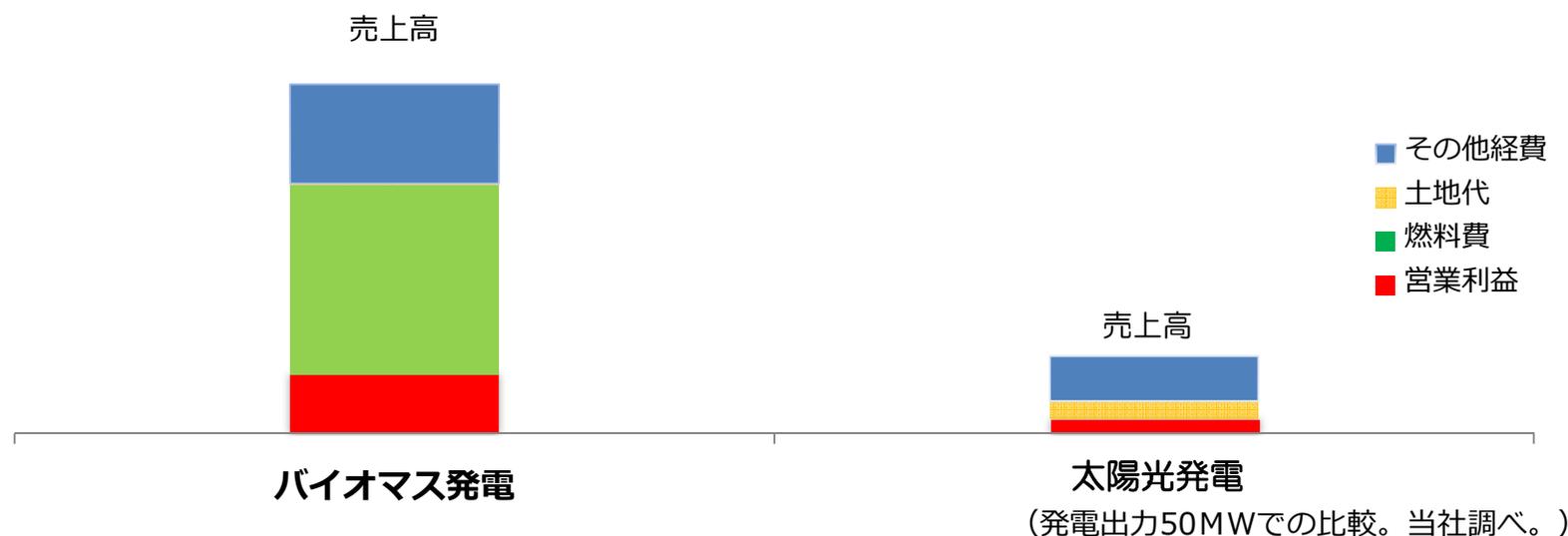


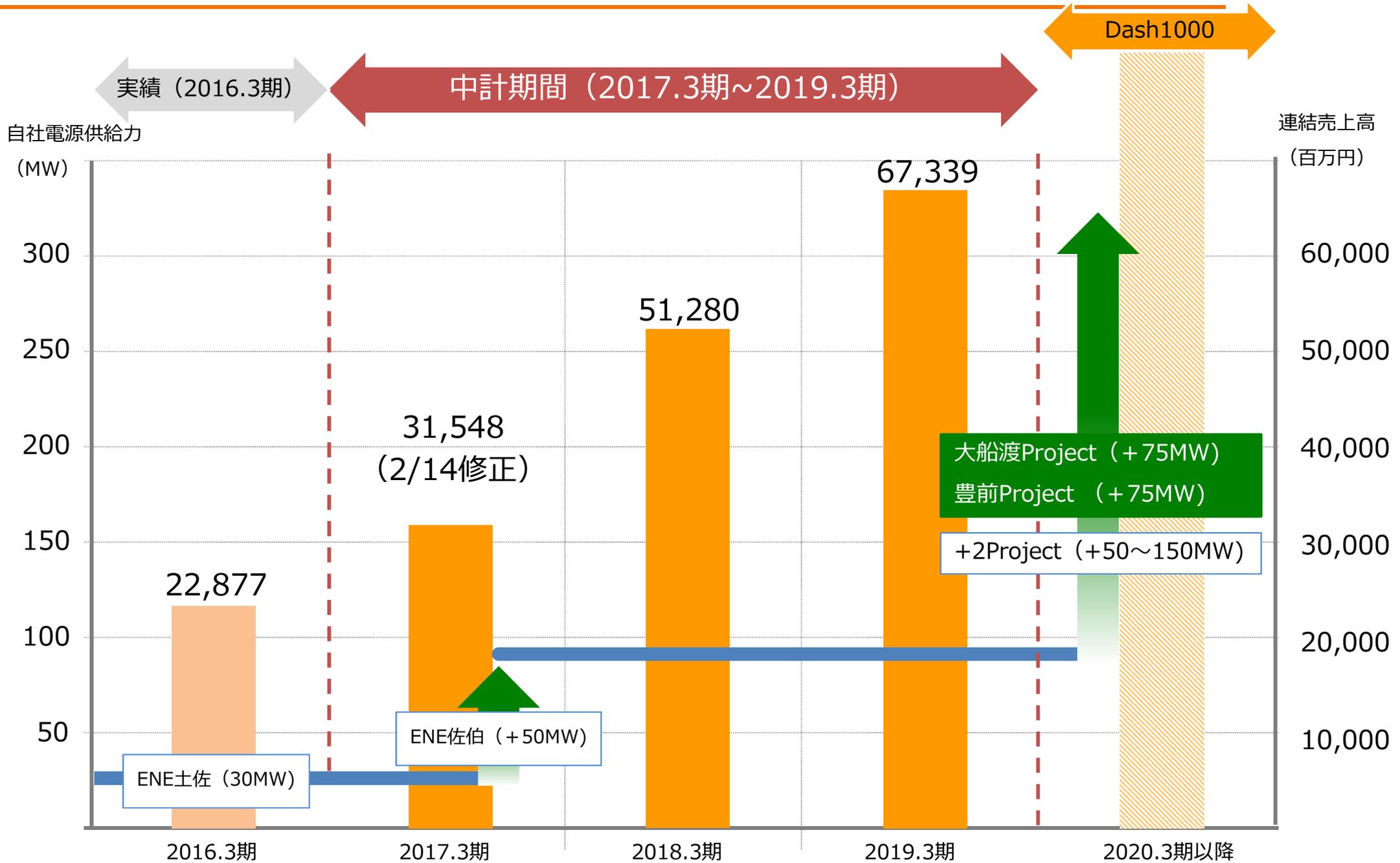
	2014年3月期		2017年3月期		2020年3月期~		2021年3月期~	
	土佐	佐伯	7月29日開示済 大船渡	9月29日開示済 豊前	沖繩	A/B地点	沖繩	A/B地点
発電出力[MW]	20	50	75	75	50	100~150	50	100~150
発電効率	31%	36%	39%	39%	未定	未定	未定	未定
燃料	PKS	PKS	バイオマス	バイオマス	バイオマス	バイオマス	バイオマス	バイオマス
投資額 [億円]	35	167	235	250	未定	未定	未定	未定
当社出資比率	100% (全量eREXへ販売)	70% (全量eREXへ販売)	35% (全量eREXへ販売)	65%	未定	未定	未定	未定
当社出資額[億円]	0.1 (済)	34.3 (済)	14.0	45.0	未定	未定	未定	未定
ファイナンス方法	コーポレート ローン	コーポレート ローン	コーポレート ローン	プロジェクト・ ファイナンス	未定	未定	未定	未定

イーレックスグループのバイオマス発電計画の展望



	バイオマス発電	太陽光発電
建設コスト (円/kW)	35~40万円	30~35万円
売電単価 (円/kWh)	24円	32円 (H24~28年度の平均)
燃料コスト (円/kWh)	10円超	0円
設備稼働率	約 85%	約12%
設置面積	約30,000m ²	約850,000m ²
建設期間	30~36か月	20~30か月
投資回収期間	8~9年	11~12年





【佐伯発電所の概要】

名称	イーレックスニューエナジー佐伯株式会社 佐伯発電所
所在地	大分県 佐伯市
設立	平成26年7月（当社出資比率：70%）
発電出力	50MW（年間売電量 約315,000MWh）
燃料	P K S（パームヤシ殻）、石炭
総事業費	約167億円
商業運転開始	平成28年11月18日



【合併会社の概要】

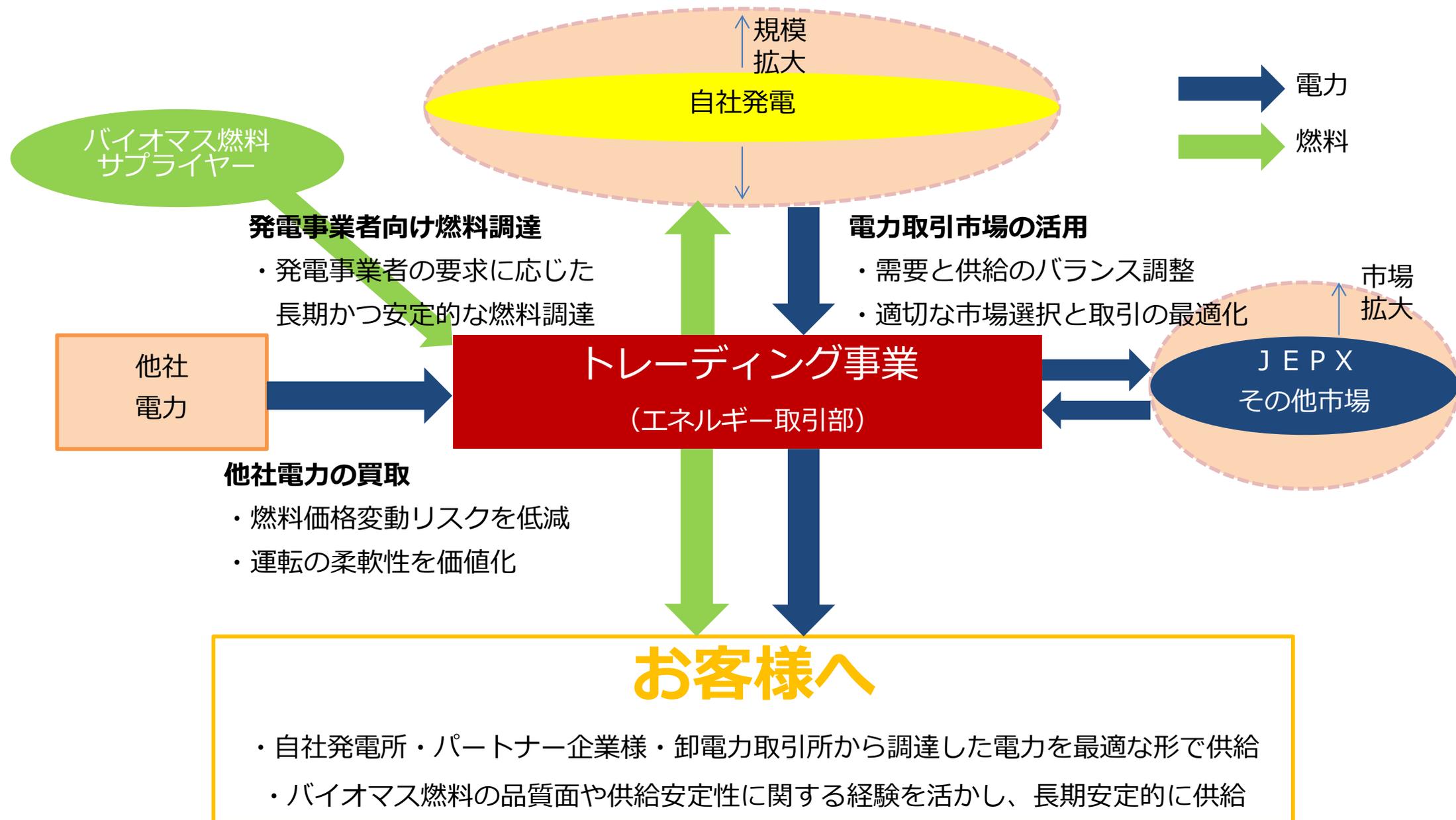
名称	大船渡発電株式会社
本店所在地	岩手県 大船渡市（太平洋セメント大船渡工場内）
設立	平成28年8月（太平洋セメント：65%、当社：35%）
発電出力	75MW（年間売電量 約480,000MWh）
燃料	P K S、E F B、石炭
総事業費	235 億円
商業運転開始予定	平成31年秋



【豊前発電所の概要】

名称	豊前ニューエナジー合同会社 豊前バイオマス発電所
所在地	福岡県 豊前市
設立	平成28年10月（当社出資比率 65%：今後段階的増資を実施）
発電出力	75MW（年間売電量 約500,000MWh）
燃料	P K S（パームヤシ殻）、木質ペレット
総事業費	約250億円
着工予定	平成29年3月
商業運転開始予定	平成31年秋





v . 第 3 四半期決算概要

2017年3月期第3四半期 総括

売上高 22,049 百万円 (前期比 32.8%増)

営業利益 2,442百万円 (前期比 141.6%増)

- **高压分野**は継続して**伸長**(約9,400施設 [第2四半期末] →約10,000施設)
- 4月から始まった**低压分野も伸長**(約25,000施設 [第2四半期末] →約36,000施設)
- **佐伯発電所は計画どおり**2016年11月に**商業運転を開始**
- 土佐発電所の操業は従前同様、**計画通りに進捗**
- **卸電力市場(外部環境)の価格変動に迅速に対応 (利益率向上)**
- ◆ **営業利益ベースの期初通期計画比進捗率は91.7%** (前年同期は進捗率66.9%)

連結損益計算書の概要



(単位：百万円、下段は構成比)

	2016年3月期 第3四半期 (前年同期)	2017年3月期 第3四半期 (当期実績)		
		実績	増減率	備考
			期初計画比 通期進捗率	
売上高	16,608 (100.0%)	22,049 (100.0%)	+32.8% 65.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・高圧部門の販売数量が前年同期比で+30%超となり大幅増収に貢献 ・低圧部門は計画通りに進捗し、増収に貢献 ・卸売上は取引所価格の下落により減収
営業利益	1,010 (6.1%)	2,442 (11.1%)	+141.6% 91.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・小売販売量の増加に伴う託送費の増加、価格の下がった卸電力取引所からの仕入の増加となったものの、高単価仕入先からの仕入量を見直し、原価の抑制が寄与。 ・ENE佐伯発電所の商業運転開始に伴う製造原価の増加 ・小売販売量の増加に伴い代理店報酬が増加、従業員の増加に伴い人件費が増加
経常利益	953 (5.7%)	2,328 (10.6%)	+144.3% 95.0%	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	667 (4.0%)	1,252 (5.7%)	+87.5% 87.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ENE佐伯の資産除去債務を計上し、税金費用が増加

(単位：百万円、下段は構成比)

		2016年 3月期末	2017年3月期 第3四半期末		
			実績	増減額	主な増減要因
資産	流動資産	13,406 (49.3%)	16,410 (40.3%)	+3,004	・売掛金の増加+1,250、未収金+712（再エネ交付金） 現金及び預金▲664、原材料等+282、その他+1,423
	固定資産	13,759 (50.6%)	24,289 (59.6%)	+10,529	・ENE佐伯等による有形/無形固定資産の増加+8,960、大船渡発電 株式会社の株式取得等+1,395、その他+174
	繰延資産	36 (0.1%)	30 (0.1%)	▲6	・子会社設立、増資に伴う株式交付費の償却の進展
資産合計		27,202 (100.0%)	40,729 (100.0%)	+13,527	—
負債	流動負債	3,096 (11.3%)	9,424 (23.1%)	+6,327	・短期借入金+2,300、発電所建設資金等の未払金+2,103 買掛金+1,178、1年以内返済予定の長期借入金+690、その他+55
	固定負債	9,373 (34.5%)	15,163 (37.2%)	+5,790	・長期借入金+2,008、発電設備等の資産除去債務+1,975 繰延税金負債+551、その他+1,255(デリバティブ債務+1,180含む)
負債合計		12,469 (45.8%)	24,588 (60.4%)	+12,118	—
純資産合計		14,732 (54.2%)	16,141 (39.6%)	+1,409	・新株予約権権利行使による資本金/資本剰余金+348、 利益剰余金+845、自己株式▲226、繰延ヘッジ損益▲1,180 非支配株主持分+1,622
負債・純資産合計		27,202 (100.0%)	40,729 (100.0%)	+13,527	—

原材料仕入の為の為替予約実施

VI. 參考資料

本社	東京都中央区日本橋本石町三丁目3番14号	
事業内容	電気事業(発電・電力小売・電力卸売)	
代表者	代表取締役会長 渡邊 博、代表取締役社長 本名 均	
設立	1999年12月	
資本金	5,118百万円 (2017年9月30日現在)	
連結子会社 (計9社)	販売子会社 (計4社)	イーレックス・スパーク・マーケティング株式会社 イーレックス・スパーク・エリアマーケティング株式会社 株式会社沖縄ガスニューパワー イーレックス販売3号株式会社
	発電子会社等 (計5社)	イーレックスニューエナジー株式会社 イーレックスニューエナジー佐伯株式会社 佐伯バイオマスセンター株式会社 豊前ニューエナジー合同会社 豊前バイオマスセンター株式会社
持分法適用会社 (1社)	発電関連	大船渡発電株式会社

